

「未来を創ることばの力」 ～ 子どもたちが自走する国語教室の創造 ～

1 本テーマ「未来を創ることばの力」について

子どもたちが生きる社会は、日々めまぐるしく変化している。このような予測困難な社会の中で幸せに生きていくためには、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、ゆるやかな協働性の中で仲間と関わり合いながら社会を切り拓いていくことが求められる。そのためには、物事を正確に理解し、論理的に思考し、豊かに想像し、適切に表現することができる「ことばの力」が不可欠である。

このような考えに立ち、私たち国語教師は、これまで以上に子どもたちのもつ力と可能性を信じ、ことばで未来を創造していく子どもを育てたいと考え、本テーマを設定した。

2 サブテーマ「子どもたちが自走する国語教室の創造」について

(1) 子どもたちが自走する学び

本テーマに迫るために、私たち国語教師は、自らがことばと向き合い、自らのことばの世界を創っていかうとする主体的なことばの学び手の育成を図っていく必要がある。

そのためには、子どもたちが学ぶペースや方法、内容などを自己選択・自己決定し、学習指導要領における、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の観点として示されている「粘り強さ」と「自己調整力」を十分に発揮できる学びの中で、確かな資質・能力を育成することが重要である。

このような学びを、子どもたちが自走する学びと定義する。

(2) 研究の経過

令和6年度は、2年次の取組として、各部会において「自走する子どもたちの姿」について議論を重ね、その具体化に向けて、自己選択・自己決定に関わる手だて、学びに見通しをもち、振り返りながら学び続けるための手だて、伴走者としての教師の支援の在り方などについて研究を進めてきた。その研究成果を受け、自走する学びの中で、資質・能力の育成を最大限図ることができるようにするために、以下のように研究を進めていくこととする。

3 研究の方法

学習に応じて、子どもが自走する場面や内容等について、効果的な設定の仕方を考える必要があることを前提とし、次の視点を踏まえて研究を進める。

- ・ 本単元、本教材で、子どもたちに身に付けさせたい力について考える。
- ・ そのために、何を自己選択・自己決定するとよいかを考える。
- ・ 「粘り強さ」と「自己調整力」を発揮しながら学習を進めていけるようにするための教師の伴走の仕方等について考える。